

京都府南丹保健所での環境学習の推進

府南丹保健所では、子ども達の環境やSDGs*への意識醸成を図り、自然に対する豊かな感受性を育むことで森の京都の豊かな自然を守り、自ら考え行動できる人材育成を目的として、ICTを活用した「①未来っ子環境スクール」と「②京都丹波スマート環境学習」を実施しています。

「①未来っ子環境スクール」は、平成18年度から、管内2市1町（亀岡市、南丹市、京丹波町）の小学校を対象とした出前授業として、地球温暖化防止をテーマに毎年実施しています。

「②京都丹波スマート環境学習」は、平成29年度に学識経験者、NPO、学校現場の経験者、民間企業等が、環境学習に関する意見交換及び情報交換を行い、授業プログラムを作成、実施する場として、「京都丹波スマート環境教育推進プラットフォーム」（以下、プラットフォーム）を立ち上げ、プラットフォームの支援の下、小学高学年を対象に、参加者公募によるイベント形式の体験型環境学習を実施しています。



①未来っ子環境スクール「植物調査」の授業の様子

令和元年度は、「①未来っ子環境スクール」を小学校のニーズに応じた内容に全面改定し、地球温暖化防止の他、SDGs、水生生物調査、植物調査、企業協働プログラムを新たに追加して、令和元年6月から令和2年1月にかけて延べ14回（12校）の出前授業を実施しました。また、「②京都丹波スマート環境学習」は、夏休み期間中に小学4年～6年の子ども達を対象に参加者を公募し、SDGsを大きなテーマとしたイベント形式の体験型環境学習プログラムを、延べ69名の子ども達の参加を得て、全3回開催しました。第1回は京都大学浅利准教授とバース講師による廃棄物と気候変動のプログラム、第2回は京都先端科学大学丹羽准教授による自然環境のプログラム、第3回はジャトコ株式会社八木地区及び雪印メグミルク株式会社京都工場の工場見学のプログラムを行いました。各プログラムでは、フィールドワークでのデータ記録や情報検索、意見の情報共有をタブレットで行う等、ICTを活用したプログラムを通して環境について学ぶとともに、SDGs達成に向けてできることを考え、自分の行動宣言として発表をしてもらいます。子ども達からは、「プラスチック製品を減らすため水筒を持っていく」、「スーパーにマイバッグを持って行く」や「SDGsの目標をたくさんの人に知ってもらいたい」など積極的に発表が行われました。

子ども達が環境問題やSDGsを自分事として捉え、自分の考えを行動に変えるきっかけとなるよう、引き続き環境学習を推進していきます。



SDGsロゴと17のアイコン

②京都丹波スマート環境学習のプログラムに参加した子ども達の様子
「廃棄物と気候変動」のプログラム 「自然環境」のプログラム